

# 東北拠点がんプロ修了者アンケート結果

アンケート実施方法：Googleフォーム

調査期間：2025年8月～2025年12月

対象者：第1期～第4期がんプロコース修了者（408名）

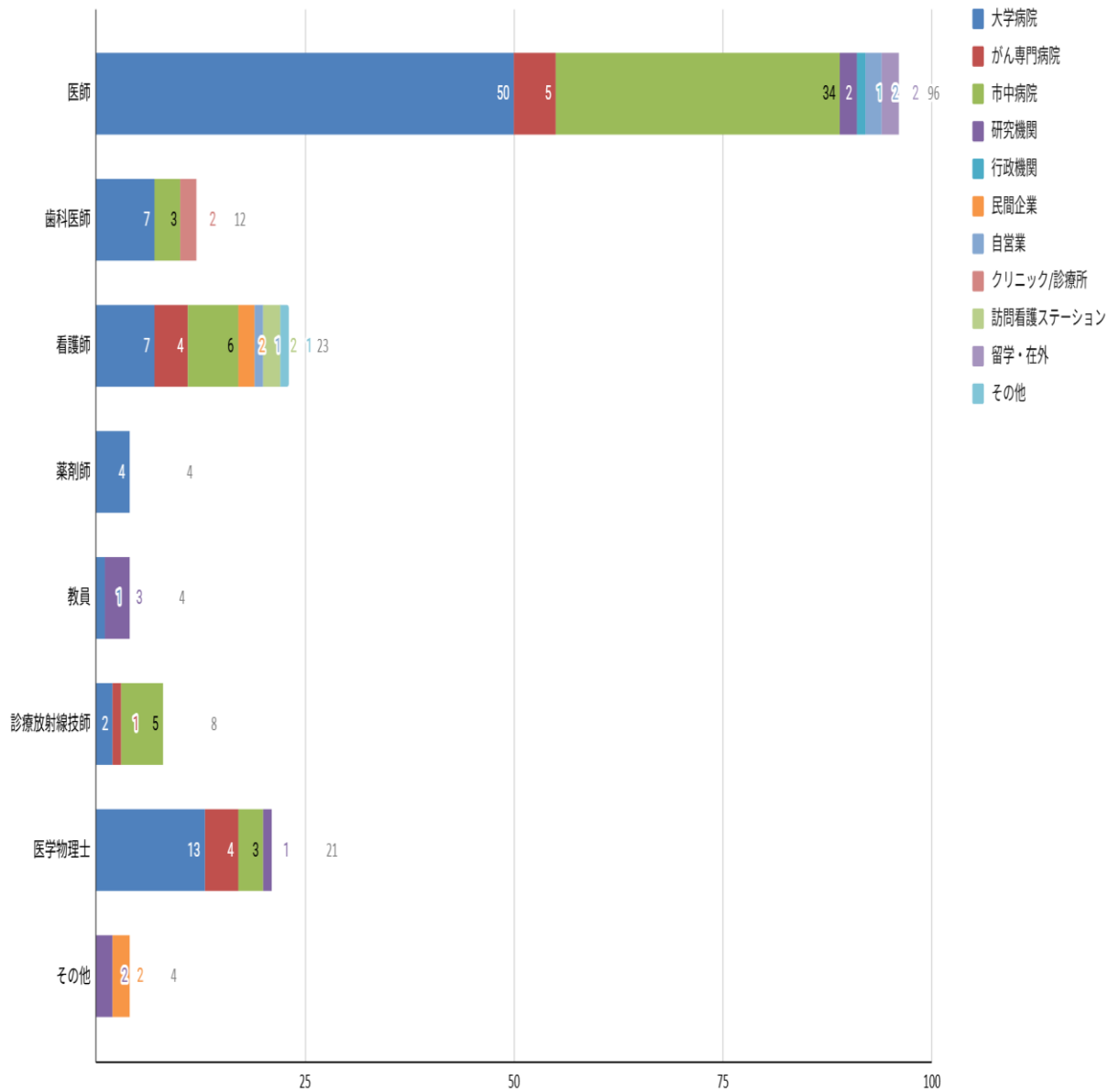
回答数：172名（回答率 42.16%）

※全国がんプロ協議会実施「卒業生アンケート調査」にあわせて東北拠点独自の項目を追加して実施。

## 全国がんプロ卒業生アンケート 質問項目

- ・現在の勤務先の種類を教えてください。  
（大学病院・がん専門病院・市中病院・研究機関・行政機関・民間企業・自営業・その他）
- ・現在の職種を教えてください。  
（医師・看護師・薬剤師・リハビリテーション専門職・臨床検査技師・臨床心理士・遺伝カウンセラー・栄養士・ソーシャルワーカー・医学物理士・診療放射線技師・データサイエンティスト・その他）
- ・がんプロ入学時の年齢層を教えてください。  
（20代以下・30代・40代・50代以上・その他）
- ・あなたの性別について教えてください。  
（男性・女性・回答しない）
- ・卒業後、希望していた職種・立場に就けましたか。  
（はい・いいえ・部分的に就けた・特に希望はなかった）
- ・現在の給料や待遇に満足していますか。  
（非常に満足している・ある程度満足している・あまり満足していない・まったく満足していない）
- ・現在、教育的な指導を行う立場にありますか。  
（はい・時々ある・ほとんどない・まったくない）
- ・がんプロに参加したことで、ご自身のキャリアに良い影響があったと感じますか。  
（非常にあった・ある程度あった・あまり感じない・まったく感じない）
- ・これからがんプロへの進学を考える人に対して、おすすめできますか。  
（強くすすめたい・ある程度すすめたい・どちらともいえない・あまりすすめたくない・まったくすすめたくない）
- ・前問でそのように答えた理由を教えてください。（自由記述）
- ・がんプロでの学びが、現在の業務やキャリアにどのように役立っていると感じますか。（自由記述）
- ・今後のがんプロに対するご期待・ご意見があれば記入ください（自由記述）

回答者の職種・勤務先種類



主な業務内容、がん医療に関わる職務内容

**医師・歯科医師**

- 固形がん薬物療法
- 臓器横断的化学療法
- ゲノム医療
- 診療・手術（ロボット手術含）
- 学生教育
- 口腔がん研究
- 臨床研究
- 講演会
- 学会の委員活動
- 社会活動

**医学物理士・診療放射線技師**

- 診療
- 放射線治療装置の品質管理
- 放射線治療計画立案
- 医学物理士の育成
- 放射線治療の研究
- 社会活動

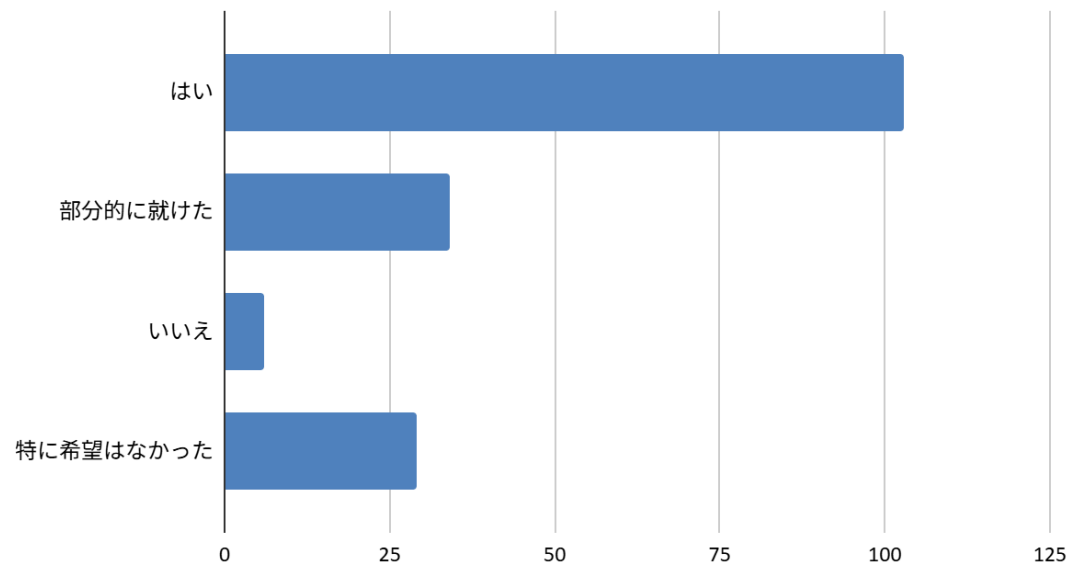
**専門看護師**

- がん相談
- 入居相談
- 看護ケア
- 訪問・在宅看護
- がん患者と家族への在宅療養支援
- がん患者サロン運営
- 看護教育・実習指導・研究

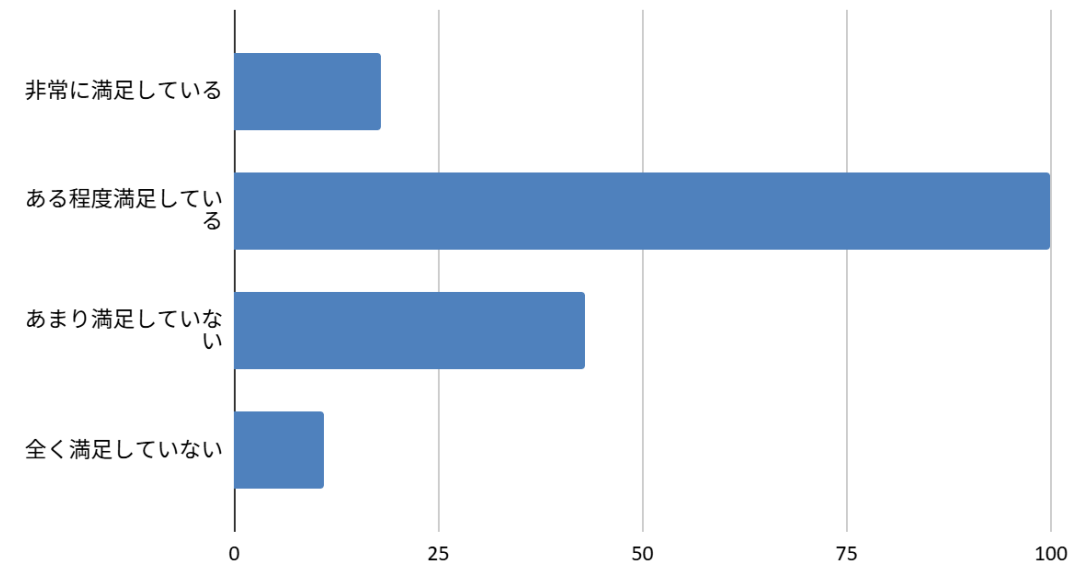
**薬剤師**

- 診療
- 教育
- 管理業務
- がん化学療法サポート

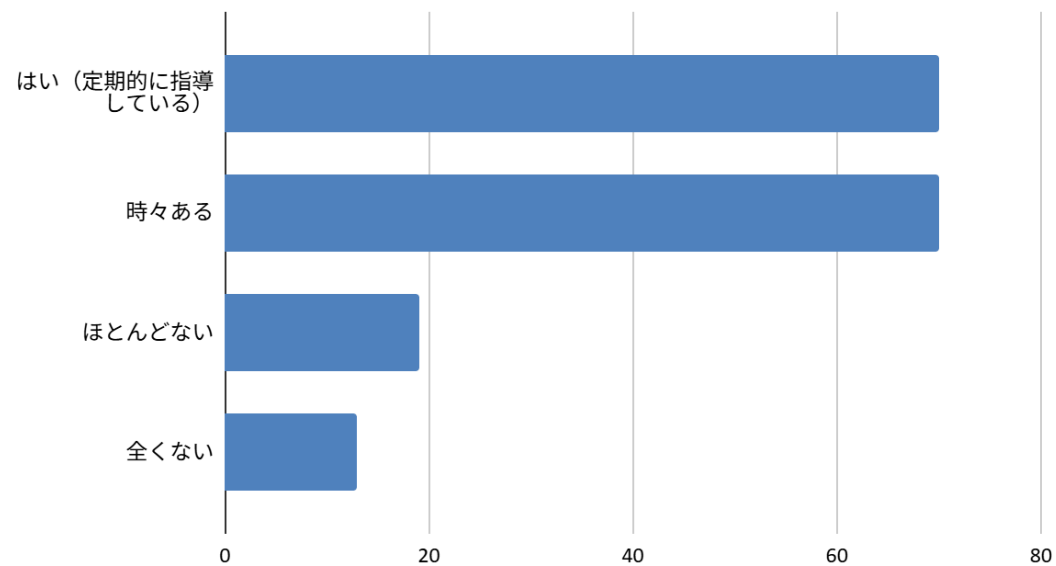
### 卒業後、希望していた職種・立場に就けましたか？



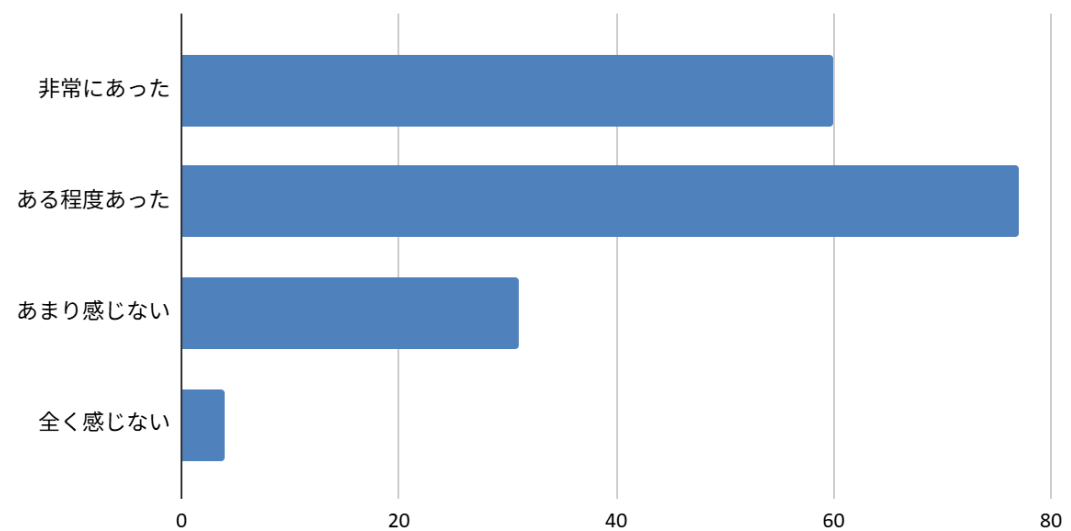
### 現在の給料や待遇に満足していますか？



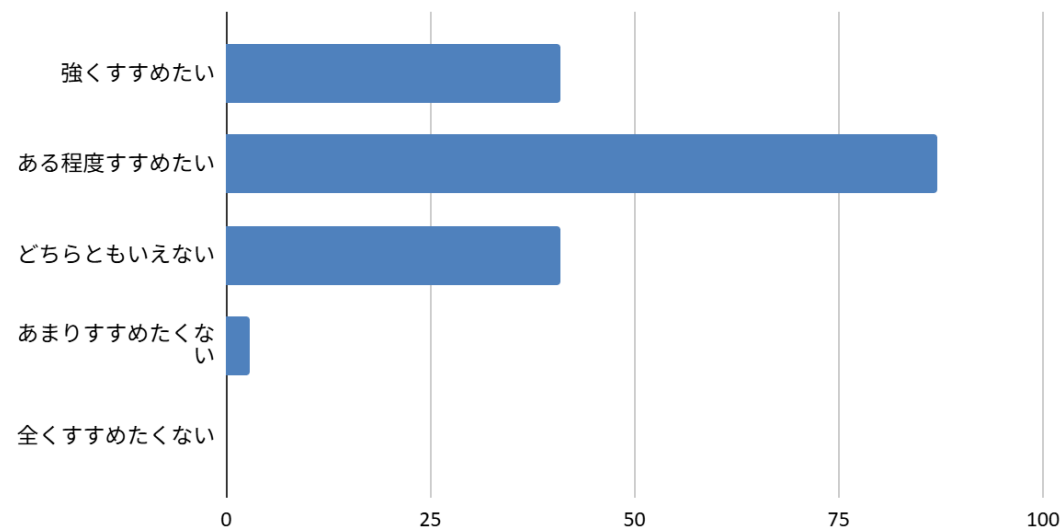
### 現在、教育的な指導を行う立場にいますか？



### がんプロに参加したことで、ご自身のキャリアに良い影響があったと感じますか？



これからがんプロへの進学を考える人に対して、おすすめできますか？



## どちらともいえない・あまりすすめたくないと思う理由

- ・資格取得後も職場での役割が汎用的（ジェネラリスト）であり、専門性を発揮・評価される機会が不足している。
- ・修了の有無が現在の役職や進路に直接関与した実感が薄く、代替手段でも同等のキャリア形成が可能との認識。
- ・がんプロよりも、所属研究室や専門医制度の影響が強く、コースとしての介在価値を感じにくい。
- ・インセンティブ（専門医取得支援等）を期待したが、実際の取得には至らなかった事例の存在。
- ・時間の経過やプログラムの全体像の不明瞭さにより、提供されるメリットを十分に活用・把握しきれていない。

## 強くすすめたい・ある程度すすめたいと思う理由

### 《医師・歯科医師》

- ・腫瘍生物学から最新の臨床試験・治験まで、がん診療の全容を体系的に学習。
- ・自科・専門領域を超えた他科の臨床実習を通じ、包括的な視点を獲得。
- ・論文作成や研究を通じ、臨床事象を論理的・批判的に分析する力を醸成。
- ・習得した知識が、患者との信頼関係構築や診療上の確固たる自信へ直結。
- ・専門家や他施設の医師との交流を通じ、将来のキャリアパスを広げる機会。
- ・普段の診療では触れない希少がんや多種のがん種を学び、知識を整理・統合。
- ・ウェブ授業の活用等により、仕事とキャリアアップを両立できる柔軟な体制。

### 《薬剤師》

- ・直接のがん診療業務に限らず、習得した体系的な知識や教育手法を現在の職務に広く活用。
- ・多様ながん種について基礎から幅広く学び、がん医療全般に対する理解を深化。

### 《看護師》

- ・専門看護師（CNS）等の資格取得、および専門職としての早期就任。
- ・がん診療・看護における広く深い専門知、最新知見の獲得。
- ・施設見学やセミナーを通じた、他施設・他職種の専門家との活発な交流。
- ・困難な状況下でも、事象を多角的に捉えて解決に導く視点の広がり。
- ・補助金等の経済的支援や、学外での学び（県外専門病院見学等）の機会。

### 《医学物理士・診療放射線技師》

- ・早期からの体系的教育により、第一線で活躍するための盤石な基礎を構築。
- ・目標よりも早期の就任を実現。
- ・就職後・勤務直後から即戦力として役立つ、質の高い知識と技術を十分に獲得。
- ・放射線治療に関する専門的理解が深まり、臨床での判断力が向上。
- ・大学外での学びや他施設の同業種との交流を通じ、多様な知見を獲得。
- ・施設を越えたネットワーク構築により、連携・相談が可能な環境を実現。
- ・学会参加援助など、学生時代からの研究活動に対する手厚い環境サポート。
- ・活発な交流と指導により、臨床のみならず研究面でも実績を残せる体制。

# がんプロでの学びが、現在の業務やキャリアにどのように役立っていると感じますか？

## 《医師・歯科医師》

- ・在学時の研究成果や疫学研究、学会参加が現在の専門領域（画像解析、細胞療法開発等）の扉を開く契機に。
- ・基礎研究での経験が、新規抗がん剤の理解や論理的な研究への取り組み方の基盤を構築。
- ・「がんプロ修了」の経歴が患者・家族への安心感に繋がり、診療における信頼関係構築の一助に。
- ・指導的・教育的な立場において、習得した知識や指導法を後進の育成に活用。
- ・診療上の困難な課題に直面した際、コースを通じて構築した専門家コミュニティへの相談が可能に。
- ・若手時代のキャリア形成における「がん医療への入り口」として、その後の進路決定に寄与。
- ・他科ローテーションや研修を通じ、他科の理念や診療行為への理解が深まり、コンサルトや相談時の連携がスムーズに。
- ・臓器横断的な広い視点を得ることで、難治例や自身の専門外の領域にも多角的なアプローチが可能に。
- ・がん診療全般の基礎から最新知見までをアップデートし、日常診療の知識的裏打ちを強化。
- ・チーム医療における多職種役割を学び、口腔がんなど特定の領域を超えた連携・アセスメントを実践。

## 今後のがんプロに対する期待・改善点・意見

- ・修了後のキャリアパス（専門医取得後など）の提示と、幅広いキャリアプロモーションの実施。
- ・修了生を対象とした継続的な学びの場の提供と、資格取得後のフォローアップ体制の構築。
- ・県・地域・国を越えた多職種・多施設間の人脈を広げる機会の拡充。
- ・修了生同士、あるいは研究者同士が交流・情報交換できるプラットフォームの整備。
- ・最新のがん治療・研究の進捗に合わせた講義内容の迅速なアップデート（オンデマンド講座の更新等）。
- ・学位取得に向けた研究指導体制の強化と、他施設研修時の柔軟な期間設定・情報提供。
- ・臨床研究・試験の立案機会の増設
- ・若手医師や学部生、大学院生に対する本コースの周知・PRの徹底。
- ・「通常の大学院」との違いや、本コースならではの強み（独自色）の明確化と発信。
- ・在籍者や修了生に対する、活動状況や支援制度（予算等）に関する情報の積極的な提供。
- ・病院の集約化や医療環境の変化に応じた、本コースの役割と位置づけの再定義。
- ・がん看護の均霑化（きんてんか）への寄与や、非医療専門職を含む外部人材の活用。
- ・医学物理士等の専門職における給与体系や立場の確立に向けた支援。
- ・経済的サポート（補助金等）の継続による、安定的な学習環境の維持。

## 《看護師》

- ・科学的根拠（エビデンス）や理論に基づいたケアの展開、および適切な分析力の修得。
- ・自らの実践のみならず、学習ニーズを捉えた教育計画の立案を通じ、後進の育成に貢献。
- ・ケアの質改善やシステム構築に向けた調整力・交渉力が向上。
- ・専門看護師取得の契機となり、指導的役割や管理職としてのキャリア形成に直結。
- ・困難な事象に直面した際、論文等の文献から解決策を見出し実践に反映させる力の活用。
- ・関連学会の代議員、学術大会の査読、ワーキングメンバーなど、学外での専門的な役割遂行。

## 《医学物理士・診療放射線技師》

- ・放射線治療計画の立案や高度な技術習得に不可欠な「事前知識」を体系的に習得。
- ・医師や先輩物理士と、より高度で専門的な対話が可能に。
- ・データ解析のためのプログラミングスキルや、論理的なデータ分析手法を習得。
- ・学会発表等を通じたプレゼンスキルを磨き、現在の業務や研究に活用。
- ・当時の教員を目標とするなど、自身のキャリア形成におけるロールモデルの発見。
- ・自身の学びを現在の職場で後進の教育や研究活動に活かすことで、組織に還元。
- ・多くの学会や研修会への参加を通じ、施設を超えた強固な人脈を構築。